

福祉センター



馬場 栄一郎 議員

Q 使用料の減免制度を設けるべき

A 受益者負担方針を当面継続する

議員 使用料の減免制度が廃止されたが、年間の収入増額は、**福祉部長** 平成30年度は287万円の増収となっている。

議員 台風19号の経験を踏まえ、地域のコミュニティや地域の共助がいかに重要か改めて感じた。増収の効果より、減免制度廃止による地域コミュニティ喪失の影響の方が大きい。コミュニティや共助の醸成のために新たな減免制度を設けるべきではないか。

市長 受益者負担見直し方針を当面の間は継続していきたい。

保養所の廃止を

議員 白田の湯の迫る大規模改修工事額の見込みは、

市民生活部長 総額で約4億6900万円を見込む。

議員 建設当時は競艇配分金が年間50億円あったが、現在は5億円。改修工事費とは別に毎年8200万円の税金を投入している。一般家庭で考えれば別荘のようなもの。この予算を地域福祉に使用すべき。保養所の廃止を求める。

市民生活部長 指定管理者更新時期となる令和4年度に合わせ、保養所事業の方向性を検討している。

その他の質問

Q 一時停止標識撤去の周知を。

A 警察提供の情報を市民に周知。



▼さまざまな活動が行われている福祉センター

多文化共生推進



佐藤 太信 議員

Q 現状把握のため外国人就労の実態調査を

A 実施し今後の施策に生かしたい

議員 ①今後の取り組みは②相談員の要件は③市民意識調査では国際交流協会の認知度が低い。さらなる展開を④課題や現状把握のため外国人就労の実態調査を。

市民生活部長 ①4月に庁内に外国人向け相談窓口を開設する②語学力や資質を総合的に判断する③協会に周知を促し、市も支援する。

環境経済部長 ④企業調査などを実施し、今後の施策に生かしたい。

ご当地キャラクターで市のPRを

議員 ご当地キャラクターを絞り、市の代表としてPR活動の展開を。



▼障害福祉課で配布しているヘルプマーク

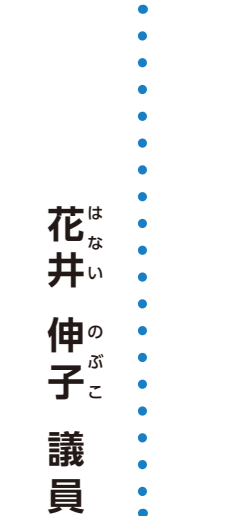
ヘルプマーク受取り場所の拡充を

議員 ①内部障がい、難病、妊娠初期など、周囲に配慮を知らせるヘルプマークの現状は②障害福祉課だけでなく他の場所でも受け取れるよう窓口を増やしてはどうか。

福祉部長 ①令和元年10月末現在で471個配布②プライバシーへの配慮や転売防止を考慮し、必要な方に行き渡るよう、障害福祉課で配布している。今後は、福祉保健センターでの配布も検討する。

議員 ①令和元年10月末現在で471個配布②プライバシーへの配慮や転売防止を考慮し、必要な方に行き渡るよう、障害福祉課で配布している。今後は、福祉保健センターでの配布も検討する。

令和2年度予算



花井 伸子 議員

Q 歳入の見通しと予算編成の基本方針は

A 市税は微増、中長期的財政運営を進める

議員 戸田市の財政力は全国でも優位で、人口増と安定した固定資産税による市税増、地方消費税交付金の大幅増収等が考えられるが、2020年度（令和2年度）歳入の見通しと予算編成の基本方針は、市民生活に目を向けた市政運営を。

財務部長 市税は近年、微増傾向にあるが、大幅な増収は見込めない。将来にわたり活力を維持していくため、中長期的視点で財政運営を進める。

アスベスト対策の徹底を

議員 故・戸田市立喜沢小学校教諭のアスベストによる公務災害認定を求める裁判は、一番は完全勝訴。二番は、アスベストの存在は認めつつ、ばく露濃度に石綿労災基準を超える独自の判断基準を展開を進める。

野良猫の不妊・去勢手術補助を

議員 補助制度の準備状況は。

環境経済部長 県の補助金の活用を視野に一頭当たり5千円、上限を40万円と考えている。

議員 事業の継続と餌やりルール啓蒙、譲渡会場の提供を求める。



▲手術を終えてリリース「おつかれさま!」

埼京線



十川 拓也 議員

Q 相鉄・JR直通線開業に伴うダイヤ改正は

A 利便性向上が見込まれる

議員 11月30日、埼京線は相鉄・JR直通線の開業に伴い、大きな変化があった。ダイヤ改正の概要について伺う。

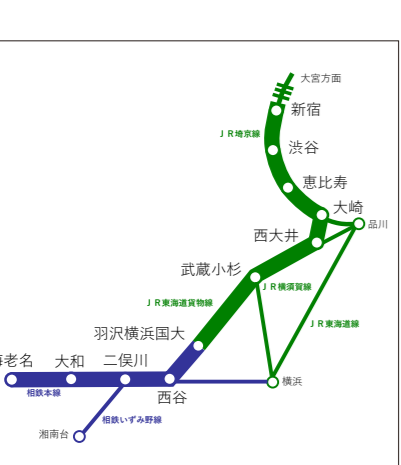
市民生活部長 埼京線は、相鉄線への直通運転が行われ、東京から神奈川エリアへの利便性向上が見込まれる。日中帯の赤羽―武蔵浦和間の運行間隔が、最大15分間隔から最大13分間隔に短縮される。また、夕夜間帯の増発も行われ、戸田公園駅への停車列車は、平日は上下合わせて6便増発、休日はすべての時間帯において増発となり、上下合わせて28便増発になる。最終電車も、新宿駅発下りが23時55分発から0時00分発になる。

議員 今後も「通勤快速の停車」「終電時刻の延長」など、粘り強い改善要望をお願いしたい。

彩湖自然学習センターの試みは

議員 センターは開館から22年が経過した。現在の試みは。

教育部長 センターでは年間入館者数2万5千人を目標として、施設愛称、マスコットキャラクターの募集など、さまざまな新しい試みを実施している。また、5階では、荒川氾濫の歴史や調節池機能としての彩湖の役割などを紹介しており、今後は自然の脅威や対策なども含め、展示や講座等も見直す。



▲相鉄線との直通運転が開始され、相鉄海老名駅まで乗り換えなくアクセス可能に